

令和6年度第1回 東京都健康安全研究センター倫理審査委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和6年9月12日(木)から27日(金)まで
- 2 場 所 書面開催
- 3 出席者 山浦委員長、貞升委員、鈴木委員、猪又委員、中西委員、樋口委員、小島委員
- 4 議 事
 - (1) 倫理審査委員会設置要綱の改正について(報告) →承認
 - (2) 迅速審査の実施状況について(報告) →承認

(令和5年度第1回倫理審査委員会(R5.9.14)書面開催後の案件)

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
(令和5年度)						
1	エムボックスウイルスの迅速診断法の開発 【目的】 エムボックス疑い患者から採取された検体(水疱内容物等)を用い、イムノクロマト法等の迅速診断法の開発を行う。 【研究方法】 富山大学で開発したイムノクロマト法のキットを譲渡してもらい、当センターでエムボックス疑い患者から採取された検体(水疱内容物等)を用い、イムノクロマト法等の迅速診断法の有効性の検討を行う。	R5年度	共同研究	ウイルス研究科 糟谷 文	R5.10.30	承認
2	東京都内における薬剤耐性菌の実態把握と分子疫学解析 【目的】 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)やバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)などの薬剤耐性菌による感染症は臨床だけでなく畜産業など多岐にわたり大きな問題となっている。日本ではAMRアクションプランを策定し薬剤耐性菌対策を講じてきたが、2020年までに設定した目標がほぼ達成されず、引き続き形で新たなアクションプランが施行された(2023年から2027年)。新たなアクションプランには、従来のCREなどの目標に加えて、VREに関する目標が追加された。これは、2020年以降国内でのVRE感染者数が大幅に増えていることが原因とされている。このように薬剤耐性菌の流行傾向は多様化し、近年著しく変化しており、都内における薬剤耐性菌の動向を把握することは非常に重要な意義がある。そのため、新たに策定される東京都感染症予防計画(健康危機対処計画)でも薬剤耐性の把握について盛り込まれる予定である。 本研究では、国内外で流行する薬剤耐性菌と当センターに搬入されている薬剤耐性菌の比較解析を行い、薬剤耐性菌の実態把握および分子疫学的解析を目的とする。 【研究方法】 国内外の研究機関、行政機関からの報告やデータベースの薬剤耐性菌の情報と当センターが保有する積極的疫学調査事業等で収集した薬剤耐性菌の情報から国内外での流行状況を把握する。流行傾向がみられる株を選定し、薬剤耐性遺伝子の検出または次世代シーケンサー(NGS)を用いた全長シーケンス解析を行い、都内流行株のゲノム情報を集約する(現段階では、pts欠損Enterococcus faecium、カルバペネマーゼ産生CREを解析予定)。収集したゲノム情報と国内外での流行株との比較解析を実施し、国内外および東京都での薬剤耐性菌の流行状況を評価する。 前年までの重点研究で培ったプラスミドの知見を生かし、同一系統の菌株による流行なのか、薬剤耐性プラスミドの伝播による流行なのかについても評価を行う。	R6～8年度	重点研究	病原細菌研究科 有吉 司	R6.3.5	承認

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
3	東京都内における性感染症起因菌の遺伝子解析	R6～8年度	重点研究	病原細菌研究科 水戸部 森歌	R6.3.5	承認
【目的】 性感染症は近年急激な感染拡大や薬剤耐性株の蔓延が問題となっている。特に梅毒トレポネーマを起因菌とする梅毒は急増傾向にあり、流行株の探知や感染経路の特定のための菌型別がこれまで以上に求められる状況となってきた。さらに、他の感染症同様、性感染症起因菌においても薬剤耐性菌の出現は注視すべき状況にある。近年、第一選択薬を含む各種抗菌薬に抵抗性を示す薬剤耐性淋菌が報告され、当研究室においても2015年に第一選択薬であるセフトリアキソンの非感受性株が分離されている。また非淋菌性尿道炎においては、難治例の原因微生物の一つとして、多剤耐性マイコプラズマ・ジェニタリウムとの関与が報告されている。実際、治療困難により長期の薬物治療が必要となる事例もあり、臨床上の課題となっている。加えて、性感染症の感染を未然に防ぐPrEPやDoxxyPEPが都市部を中心に臨床分野で活用され始めており、様々な予期せぬ性感染症の流行が懸念される。 性感染症のなかで最も罹患者が多い性器クラミジア感染症の原因菌であるクラミジア・トラコマトリスは、近年の全ゲノムシーケンス技術の発展により、より高解像度の分子疫学的調査が実施できるようになってきている。クラミジア・トラコマトリスの都内における伝播の状況の解明は性感染症対策を講じる上で極めて有用である。 これら性感染症起因病原体の薬剤感受性や薬剤耐性関連変異の保有率のデータは、東京都における性感染症の蔓延防止対策や適切な治療薬を判断するための指標となりうる。そこで、本研究では抗体検査や遺伝子型別法を用いた分子疫学的調査により流行の背景を把握する手法を開発するとともに、都内の実態を解明することを目的とする。 【研究方法】 感染症発生動向調査事業等で得られた菌株および臨床検体を対象に以下の検討を行う。 1. 梅毒等の病原体の臨床検体から核酸抽出し、検出法の検討、遺伝子型別を行う。 2. 淋菌分離株について薬剤感受性試験を行う。 3. マイコプラズマ・ジェニタリウムの都内における検出率をモニタリングするとともに、遺伝子陽性検体についてマクロライド系およびキノロン系抗菌薬に関わる薬剤耐性関連遺伝子変異を検出する。 4. クラミジア・トラコマトリスの遺伝子陽性検体について遺伝子型別試験を実施する。						
4	環境水を利用したウイルスモニタリング法・遺伝子解析法の検討	R6～8年度	重点研究	ウイルス研究科 熊谷 遼太	R6.3.5	承認
【目的】 地方衛生研究所は東京都感染症予防計画に基づき、平時から感染症危機に備えた体制整備を行い、有事には感染症の発生のまん延防止を図ることが求められている。環境水（流入下水等）を対象としたウイルスモニタリングは、新型コロナウイルスやポリオウイルス等を対象に実施され、平時における潜在的な感染者の把握や感染症の早期探知が期待される。一方で、環境水を対象としたウイルス検査は、技術的なハードルが高く、ウイルス濃縮や遺伝子精製・抽出等、様々な方法が試みられているが、未だ標準化されているとは言えない。また、ウイルスの遺伝子解析（全ゲノム解析、変異検出等）は流行株の実態把握に利用されているが、環境水の利用価値については十分な検討がされていない。 そこで、本研究では、有事の際の有効利用を目的とし、新型コロナウイルスをはじめとした都内で流行が想定されるウイルスを対象に、モニタリング検査法の検討及び遺伝子解析を試みる。 【研究方法】 環境水検体等を対象に前処理法や高感度な検査系を検討し、各種ウイルス（新型コロナウイルス等）におけるウイルスモニタリングの検査法を確立する。ウイルス遺伝子解析法（定量試験、変異検出等）から得られた解析データと発生動向調査等で検出されるウイルスデータを比較する。 過去にウイルス分離された株を中心に全ゲノム解析等の手法を用いて解析し、流行株との比較検討を行い、特徴的な変異領域の把握を行う。						
5	不明疾患の網羅的解析法の検討および大規模検査を想定したウイルス検査法の構築	R6～8年度	重点研究	ウイルス研究科 浅倉 弘幸	R6.3.5	承認
【目的】 新規ウイルス感染症の発生時には、地方衛生研究所は早期の診断により感染拡大防止に努めなければならないため、東京都感染症予防計画（健康危機対処計画）に基づき、発生後1か月以内に最大数の検査を実施できる体制等を構築する必要がある。そのためには、原因ウイルスの特定から最大数の検査体制構築へのスイッチを迅速に行う必要があり、平時から感染症危機に備えた体制整備のための準備を行う必要がある。そこで、次世代シーケンサー（NGS）を用いた網羅的な解析手法を用いて、不明疾患の検査に適応するとともに、多検体の検査を迅速に動かすために、検査法の開発から検査機器・試薬を有効に稼働させることを本研究の目的とする。 【研究方法】 患者の血清や糞便などの臨床検体中から原因となるウイルスの検出を試みる。ライブラリ作製法やライブラリ調整試薬の比較などのシーケンス条件の検討、検索Webデータベースの検討を行い、検出感度の向上を図る。さらに、多検体処理が可能な大規模検査系を構築し、検査機器を稼働させる等の実践型訓練を実施する。						

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
6	食中毒起因菌の分子疫学解析とデータベース構築に向けた基礎的研究	R6～8年度	重点研究	食品微生物研究科 村上 昂	R6.3.5	承認
	【目的】 本研究では、全ゲノム配列を用いた分子疫学解析手法により菌株間の相同性解析を行い、食中毒・感染症の感染源を探索すること、及び都内における食中毒起因菌の遺伝子データベースを構築することを目的とする。 【研究方法】 都内で分離された赤痢菌・腸管出血性大腸菌等について全ゲノム配列情報と薬剤感受性試験結果、MLVA法の結果等を合わせた解析を行い、菌株間の関連性と各菌株の特性を明らかにする。					
7	黄色ブドウ球菌等の毒素検出に関連する新規検査法の検討	R6～8年度	課題研究	食品微生物研究科 小林 真紀子	R6.3.5	承認
	【目的】 黄色ブドウ球菌は、食中毒の原因菌として知られており、食中毒発生時には原因究明のために、分離された黄色ブドウ球菌の疫学解析を実施する必要がある。しかし、現在の疫学解析法は、煩雑であり検査結果を得るまでに時間を要する。本研究では、黄色ブドウ球菌等の疫学解析のための新たな手法を検討することを本研究の目的とする。 【研究方法】 フーリエ変換赤外分光光度計 (FTIR) を利用し、従来法のコアグラゼ型別およびSE型別結果との関連性を検討し、食中毒発生時の疫学調査に活用できるか検証する。また、SEを検出可能な新規検査法を検討する。					
8	侵襲性および呼吸器等感染症起因菌の解析	R6～8年度	課題研究	病原細菌研究科 内谷 友美	R6.3.5	承認
	【目的】 近年、社会活動の活性化に伴い、細菌を原因とする侵襲性感染症や呼吸器感染症等の発生件数は増加傾向にある。侵襲性感染症の原因となる肺炎球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、溶血性レンサ球菌等は、全身性の重篤な感染症を引き起こし、临床上重要な問題となっている。また、呼吸器感染症の原因となる、A群溶血性レンサ球菌、肺炎マイコプラズマ、百日咳等は、発生件数が増加しており、その実態の把握が重要である。インバウンドの増加やワクチンの導入等の要因により、これらの感染症起因菌の型別や薬剤感受性等の特徴に変化が認められており、都内の細菌感染症起因菌についてその特徴を継続的に把握することは非常に重要である。本研究においては、東京都内で分離された侵襲性および呼吸器等感染症起因菌について、型別検査、薬剤感受性試験、遺伝子型別検査等を実施し、東京都内で問題となる病原菌の特徴を把握することにより、感染症対策に寄与することを目的とする。 【研究方法】 積極的疫学調査及び感染症発生動向調査事業等に基づき収集した、侵襲性感染症および呼吸器感染症等起因菌 (肺炎球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、溶血性レンサ球菌等) の菌株を対象に、血清型、遺伝子型、薬剤感受性等の調査を実施する。継続的に調査を実施することで、病原菌の経時的な変化について分析する。また、疫学的に重要な株については、ゲノム解析を実施し、病原因子や薬剤耐性遺伝子の網羅的検索、分子疫学解析等を実施する。 国内や世界における、感染症起因菌の情報を収集し、都内分離株と比較することで、都内における感染症起因菌の流行状況と菌株の特徴を把握する。					
9	動物由来病原体および薬剤耐性菌の遺伝子解析	R6～8年度	課題研究	病原細菌研究科 小林 甲斐	R6.3.5	承認
	【目的】 動物由来病原体や薬剤耐性菌による脅威が近年増大している。本研究では、これらの臨床検体もしくは分離株に対し遺伝子型別等の解析を実施することで、病原性や薬剤耐性に関わる分子疫学的な特徴を解析することを目的とする。 【研究方法】 イヌ・ネコ由来ESBL産生大腸菌、ブタレンサ球菌の解析の他、必要に応じて積極的疫学調査等において得られたヒトから分離した臨床菌株を対象として遺伝子解析を行い、分子疫学的な情報を調査する。					
10	畜水産物の喫食による健康被害のリスクがある病原寄生虫の遺伝子解析	R6～8年度	課題研究	病原細菌研究科 神門 幸大	R6.2.28	承認
	【目的】 分子生物学的手法を用いて、ヒトに病原性を示す寄生虫の分類、同定、疫学解析を行うことにより公衆衛生上のリスクを推定することを目的とする。 【研究方法】 住肉胞子虫等のヒトに病原性を示す可能性のある寄生虫を対象とし、遺伝子解析による種同定や遺伝子型別を行う。					

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
11	感染性胃腸炎起因ウイルスに関する分子疫学解析とウイルス分離法の検討	R6～8年度	課題研究	ウイルス研究科 横田 翔太	R6.2.28	承認
	【目的】 感染性胃腸炎起因ウイルスは、遺伝子変異による伝播性や病原性の変化による大流行が危惧されており、遺伝子解析によるウイルスのモニタリングが必要である。そこで本研究ではウイルス性食中毒および感染性胃腸炎の検査において、臨床検体から検出された感染性胃腸炎起因ウイルスの遺伝子解析および遺伝子型分類等の分子疫学解析を目的とする。また感染性胃腸炎起因ウイルスの中でも、ノロウイルスは分離培養方法が確立されていない。ノロウイルス分離法の確立は、ノロウイルスライブラリの作製やノロウイルス不活化法の検討などへの応用が期待される。そこで本研究では、ノロウイルスの分離培養が可能な細胞種として有望なiPS細胞由来の腸管上皮細胞を使用した、ノロウイルス分離法の検討も目的とする。 【研究方法】 1. 当センターに搬入された臨床検体を使用し、感染性胃腸炎起因ウイルスの遺伝子解析を実施する。これにより、流行しているウイルスの遺伝子型や特徴的な変異の有無などの調査を行う。 2. ノロウイルスについて、iPS細胞由来の腸管上皮細胞に感染させることで、分離培養を試み、分離培養可能な条件を検討する。					
12	東京都内における急性呼吸器感染症起因ウイルスの遺伝子解析に関する研究	R6～8年度	課題研究	ウイルス研究科 黒木 絢士郎	R6.2.28	承認
	【目的】 2019年12月初旬に中国で新型コロナウイルス感染症が発生して以降、未だ収束には至っておらず、今後も新たな変異株の出現が予想される。新たに生じた変異によっては、既存の検査系に影響を及ぼす可能性があるため、最新のウイルス情報を収集しつつ、検査系の検証および改良に努めなければならない。また、その他の呼吸器感染症についても検査・解析を行い、その流行状況の把握と原因となるウイルスの調査を行い、感染拡大防止に寄与することが求められている。 そこで本研究では、新型コロナウイルスについては、新たな変異株に対応したリアルタイムPCR法の構築および次世代シーケンサーによる解析法の改良を行い、継続してモニタリングを実施し、その他の呼吸器感染症については、起因するウイルス各種の検査系の開発・検討を行い、急性呼吸器感染症の検査体制、発生動向調査等を強化することを目的とする。 【研究方法】 新型コロナウイルスについては、GISAIDに登録された変異株の全遺伝子配列情報をもとにプライマーやプローブを設計し、リアルタイムPCR法による変異株スクリーニング検査法の開発およびNGS解析法の改良に取り組むことで、変異株に合った検査法を整備し、都内の流行状況のモニタリングを行う。また、インフルエンザウイルスの全ゲノム解析法の検討や他の呼吸器感染症ウイルスの検査法の構築や改良を行い、様々な呼吸器感染症起因ウイルスの流行状況の把握を試みる。					
13	東京都内におけるウイルス性発疹症の分子疫学解析・動向把握に関する検討	R6～8年度	課題研究	ウイルス研究科 岡田 若葉	R6.2.28	承認
	【目的】 当センターでは、感染症発生動向調査事業や積極的疫学事業などにより、東京都内で流行するウイルス性疾患の病原体調査を行っている。発疹を主訴とするウイルス性感染症は、手足口病、ヘルパンギーナ等の小児を中心としたものや、デング熱、エムボックス、麻しんなど海外での感染がきっかけとなる疾患など多岐にわたる。また、典型的な症状を示さず、原因ウイルスの特定が難しい症例も増えている。 そこで本研究は、ウイルス性発疹症の起因ウイルスについて、遺伝子学的手法を用いた解析を中心に行いデータを蓄積し、流行状況に応じた迅速な解析体制の整備や、都内流行株と他の地域流行株との比較・解析を行うことを目的とする。 【研究方法】 感染症発生動向調査事業により小児科病原体定点医療機関、基幹病原体定点医療機関から搬入される小児の発疹症(手足口病、ヘルパンギーナ、不明発疹症など)の患者検体を用いて原因ウイルスの究明・遺伝子解析・遺伝子データベースの蓄積を行い、都内流行状況を把握する。また積極的疫学調査事業により搬入されるデング熱、エムボックス、麻しんなどの患者検体を用いて遺伝子解析を行い、渡航地域や接触歴などの疫学情報を合わせ、解析を行う。また、得られたデータをもとに検査法の妥当性を検証し、必要に応じて流行ウイルスにあった検査法への改良を検討する。					

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
14	都内つつが虫病病原体の分子疫学解析とダニ媒介感染症の検査系の整備に関する研究	R6～8年度	課題研究	ウイルス研究科 原田 幸子	R6.2.28	承認
	【目的】 つつが虫病は、Orientia tsutsugamushi (O.tsutsugamushi) を病原体とするリケッチア症で、ダニ目ツツガムシ科のダニによって媒介される疾患である。また、つつが虫病と症状が似ており、臨床鑑別が困難な日本紅斑熱は、紅斑熱群リケッチアの一種 Rickettsia japonica を病原体とし、マダニにより媒介される。つつが虫病や日本紅斑熱は4類感染症に指定されており、積極的疫学調査事業の一環で調査を行っている。さらに、2019年に都内でもダニ媒介性感染症の一つである重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 患者の発生が報告されたが、最近、国内ではエボウイルス感染症やオズウイルス感染症などのダニ媒介性感染症の発生が報告されている。 そこで、都内で検出された O.tsutsugamushi などの遺伝子学的特徴を明らかにすること、ダニ媒介性感染症検査系の整備を行い、都内発生に備えることを本研究の目的とする。 【研究方法】 ・積極的疫学調査事業により搬入されるつつが虫病、日本紅斑熱患者検体を用いて、検出された病原体の遺伝子学的特徴を明らかにする。特に、古くから問題となってきた伊豆七島における七島熱の病原体の遺伝子学的特徴 (遺伝学的な多様性) を分子系統樹や MLST 等により解析する。 ・過去に保存された O.tsutsugamushi の遺伝子解析・遺伝子データベースの蓄積を行う。 ・都内発生が危惧されるダニ媒介性感染症検査系 (エボウイルスやオズウイルス等) の整備を行い、感染原因不明な検体等の検査を実施する。					
15	腸管系病原菌を対象とした薬剤耐性菌のサーベイランス調査	R6～8年度	基盤研究	食品微生物研究科 小西 典子	R6.2.28	承認
	【目的】 ヒトから分離された腸管出血性大腸菌、サルモネラおよびエルシニア等について薬剤感受性試験を実施し、それぞれの薬剤耐性菌出現状況を明らかにすることを目的とする。薬剤耐性菌出現状況を把握することで、治療に用いる抗菌薬の有効性を評価することが可能となる。 【研究方法】 剤耐性菌の出現状況、菌株の特徴を明らかにすることにより、国内の薬剤耐性菌出現状況を把握する。					
16	薬剤耐性変異を持つウイルスの遺伝子解析と疫学調査に関する研究	R6～8年度	基盤研究	ウイルス研究科 河上 麻美代	R6.2.28	承認
	【目的】 ある種のウイルス感染症の治療では抗ウイルス薬が有効である。しかし、薬の不規則な服用や自己判断による治療の中断などによって、薬剤耐性遺伝子変異が生じ、治療が困難になる場合やそれに伴う薬剤耐性ウイルスの蔓延が懸念されている。そのため、都内で検出されたウイルスにおける薬剤耐性関連変異の流行状況を把握することは公衆衛生上重要な意味がある。そこで、HIV や新型コロナウイルスなどの薬剤耐性に関連する変異について網羅的に調査研究を行うことを本研究の目的とする。 【研究方法】 ・エイズ対策に基づく都内公的検査機関での HIV 無料・匿名検査により搬入された臨床試料を用いて、血清学および分子生物学的解析を行い、都内の HIV 流行状況を把握する。得られた HIV 陽性検体に対して、HIV の遺伝子配列を決定し、Stanford 大学の HIV Drug Resistance Database を用いて HIV の遺伝子型および薬剤耐性関連変異の検索を行う。 ・新型コロナウイルス等の全ゲノム情報を登録しているデータベース (GISAID) の登録データを用いて、薬剤耐性遺伝子の網羅的検索を行い、都内における耐性ウイルスの分布とその伝播性を系統樹解析等により検討する。					
17	ウイルス性感染症の簡易検査法の評価に関する研究	R6～8年度	基盤研究	ウイルス研究科 伊藤 仁	R6.2.28	承認
	【目的】 イムノクロマトグラフィー法を原理とする抗原定性検査キット (以下、検査キット) は、検査操作が簡易で専用の検査機器を必要とせず、短時間で結果を得られるため、以前から多くの医療機関で使用されている。 ウイルスや細菌は遺伝子変異を起こすことで、構造の一部を変化させ、その病原性や感染性を増強させた変異株が生じることがある。検査キットの検出対象であった部位が変化した際には、その検査キットにおける検出精度が低下する可能性がある。しかし、開発から時間が経過している検査キットもあり、現在の流行株に対応できているかについての検討し有用性を確認することを目的とする。 【研究方法】 当センターに搬入された臨床検体から細胞培養によりウイルスを分離し、得られた培養上清を用いて、検討用の試料を作製し、検査キットによる検査を実施し、ウイルス量や検査キットの結果を比較する。					

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
18	生化学的検査試料の作製に関する研究	R6～8年度	基盤研究	精度管理室 森内 理江	R6.2.27	承認
	【目的】 東京都衛生検査所精度管理調査の調査試料として収集した残余血液を材料に用い、安定した試料の作製方法を確立することを目的とした。 都内の登録衛生検査所への立入検査の際に、精度管理室は既知検体を持参し現地で技能評価を行う役割を担っている。既知検体はこれまで値付された患者プール血清を他県の団体から譲り受けていたが、事業から撤退したため、入手することができなくなった。市販の人工試料では機種間差が大きく、正確な評価が難しいことが知られているため、精度管理室での作製を検討する必要がある。 【研究方法】 東京都衛生検査所精度管理調査の調査試料として収集した残余血液を材料に用いて作製した調査試料について総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、総コレステロール等の生化学的検査項目を定期的に測定し、経時的変化や再現性を評価し、安定して測定可能な項目を検索する。 【特色】本研究によって得られた知見をもとに、検査所の技能評価に応用可能な試料の作製を可能とする。					
19	パンデミックモデリングのためのCOVID-19感染ペア分析 (COVID-19 transmission pair analysis for pandemic modelling)	R5～10年度	共同研究	健康危機管理情報課 疫学情報担当 村田 ゆかり	R6.3.21	承認
	【目的】 パンデミックの初期段階におけるCOVID-19感染ペアの疫学的特徴を理解すること 【研究方法】 東京の接触者追跡で特定された感染ペアの年齢や感染状況の頻度を、既知の接触調査データセットと比較することで、接触マトリックスを用いた従来の感染症モデルが実際の呼吸器感染症の発生を確実に再現できるかどうかを評価する。以前の研究で用いられた(Imamura et al. 2023 JAMA Netw Open; doi:10.1001/jamanetworkopen.2023.0589)データセットを用いて解析を行う。 用いるデータは既にHER-SYSデータから仮名加工情報化されているデータであり個人情報は含まない。					
(令和6年度)						
20	アレルギー疾患に関する3歳児調査(令和6年度)	R6年度	その他	健康危機管理情報課 堀 純子	R6.6.10	非該当
	【目的】 都内3歳児におけるアレルギー疾患の罹患状況や保護者のニーズ等を把握し、普及啓発等、アレルギー疾患対策を効果的に推進するための基礎資料とする(5年毎調査) 根拠:「東京都アレルギー疾患対策推進計画」 【研究方法】 令和6年10月に都内区市町村で実施する3歳児健康診査の受診者及びその保護者に対し、区市町村の協力を得て調査依頼状を配付し、WEBで回収。調査は調査会社に委託し、印刷・発送・回収・入力集計を行ったのち、アレルギー疾患対策検討部会で結果の分析を行う。 調査結果は、令和7年度に報告書を作成し、「東京都アレルギー情報navi.」に掲載する。					
21	エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究	R6～7年度	受託研究	微生物部 貞升 健志	R6.8.21	承認
	【目的】 都内におけるHIV・性感染症に係る調査と解析を行う。アンケート調査等により、都内無料匿名検査所の潜在的な検査能力(キャパシティ)の把握や、受検者層の検査目的の把握を試みる。 【研究方法】 具体的には、①都内保健所等に対し潜在的な検査能力を把握する、②新宿東口・検査相談室の性感染症検査受診者を対象に個別のアンケート調査を実施する。②については、携帯のQRコード機能で、Webベースのアンケート調査を実施し、集計・解析を行う。調査項目は、年齢、性別、受検目的等であり、月毎、週毎の受検者の動向を把握する。					

	研究科題名	研究期間	研究区分	申請者	審査日	判定結果
22	地方衛生研究所におけるゲノム検査等に係る人員体制及び人材育成法を確立するための研究	R6～7年度	応募研究	微生物部 貞升 健志	R6.8.21	承認
	(目的) 本研究班では、臨床検体または分離株を対象に、次世代シーケンサーを用いた病原体解析を試みるためのマニュアル等を整備し、最終的に、全国の地方衛生研究所のゲノム検査における人材育成法についてガイドラインを作成することを目的とする。 (研究方法) 各研究者の下で、実施し、保管された次世代シーケンサーで取得した病原体関連核酸(臨床由来、分離株由来)に関する解析生データを用いる。それらの生データを海外(もしくは国内)のWeb解析サイトでの再解析や、研究分担者が構築したソフトで再解析し、マニュアル化に向けて有用性を検討する。					
23	日本におけるHIV感染症の動向把握に関する研究	R6～7年度	受託研究	ウイルス研究科 長島 真美	R6.8.21	承認
	【目的】 一般に、エイズ発生動向調査によるHIV/AIDS報告数をもとに感染から診断までの期間を推定し、新規感染者数(incidence)を推計している。もともとなる早期診断率の推定には、診断時のバイオマーカーや新規診断者の抗HIV抗体量などのパラメーターを用いて評価している。本研究では、推計に必要なパラメーターの検討を行い、精度の高いHIV感染者数の推定を試みることを目的としている。 【研究方法】 東京都内の公的検査機関でHIV陽性と判定された検体に関して、血清学的解析(Lag Avidity、確認IC法等)を行い、都内の公的検査機関における早期診断率を明らかにする。					